

# 青森県の希少な野生生物

—青森県レッドデータブック（2010年改訂版）—



2010年3月

青 森 県

■表紙写真説明



# 青森県の希少な野生生物

—青森県レッドデータブック（2010年改訂版）—

2010年3月

青 森 県



## 発刊にあたって



青森県は世界自然遺産白神山地をはじめ、十和田八幡平国立公園、津軽及び下北半島国定公園、ラムサール条約登録湿地「仏沼」など、優れた自然環境に恵まれています。そして、そこに生息・生育している野生生物は、本県の地理的な要因等から、世界的に見ても希少価値の高い種や他地域では見られない特異な生態を有する種が多数見られます。私たちには、これらの希少野生生物を保護・保全し、かけがえのない自然を次世代へ引き継いでいく責務があります。

このため、県では、県政運営の基本方針である「青森県基本計画 未来への挑戦」に基づき、恵み豊かな自然の保全と適正な利用を進めるとともに、生物多様性の確保を図りながら、暮らしの中で自然の素晴らしさを実感できる環境づくりに取り組むこととしています。

また、1993年に「生物多様性条約」が発効して以降、国においては「第三次生物多様性国家戦略」が策定され、2008年に「生物多様性基本法」が施行されました。さらに、本年10月には愛知県名古屋市で同条約締約国会議の開催が予定されるなど、生物多様性保全の重要性は国内外においてますます高まってきています。

本書は、本県の豊かな自然環境の状況を示す指標である希少野生生物の現状を把握するとともに、種の希少性や保護の重要性についての普及啓発を図るために、県が2000年3月に作成した「青森県の希少な野生生物 青森県レッドデータブック」に掲載された選定種について、新規選定種の追加やランクの見直しを行い、その結果を「青森県の希少な野生生物 - 青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -」として取りまとめたものです。

本書により、多くの県民や関係者の皆様が、本県の希少野生生物についての認識を一層深めてくださり、本県の自然環境が将来にわたり保護・保全されていくことを願っています。

終わりに、本書の作成にあたられた「青森県レッドデータブック改訂検討会」の委員の方々をはじめ、調査、研究、執筆、編集等に携わってこられた関係者の皆様、資料や写真の提供をいただいた方々に厚くお礼申し上げます。

2010年3月

青森県知事 三村申吾

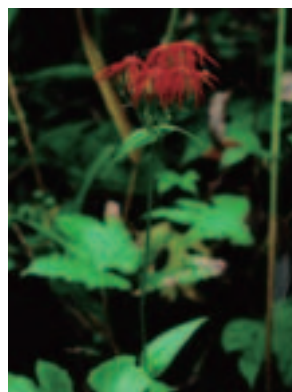




維管束植物



キジノオシダ (A) P.23 参照  
2000年, 深浦町 (旧岩崎村), 木村啓



エンビセンノウ (A) P.25 参照  
1964年, 八戸市, 根市益三



エゾハコベ (A) P.27 参照  
1999年, 六ヶ所村, 根市益三



タカネガンバイ (A) P.27 参照  
2002年, 深浦町, 木村啓



レブンイワレンゲ (A) P.30 参照  
1993年, 八戸市, 細井幸兵衛



アズマツメクサ (A) P.30 参照  
2007年, 東通村, 木村啓



エゾシモツケ (A) P.32 参照  
1996年, 東通村, 根市益三



エイザンスミレ (A) P.33 参照  
2002年, 五戸町, 木村啓



バアソブ (A) P.39 参照  
1989年, 三沢市, 根市益三



ムラサキ (A) P.39 参照  
2002年, 八戸市, 根市益三



ツルカメバソウ (A) P.40 参照  
2008年, 八戸市, 根市益三



エゾナミキソウ (A) P.41 参照  
2004年, 八戸市, 根市益三



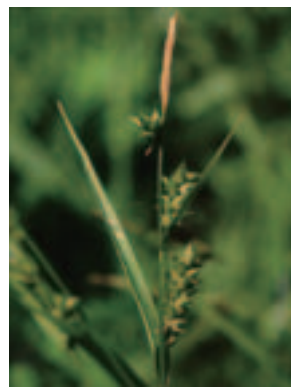
ヒメユリ (A) P.50 参照  
1970年, 南部町 (旧名川町), 根市益三



クグスゲ (A) P.54 参照  
1990年, 東通村, 根市益三



ヒメウシオスゲ (A) P.54 参照  
1991年, 六ヶ所村, 根市益三



ハタベスゲ (A) P.57 参照  
1961年, 八戸市, 根市益三





オオエゾデンドラ (B) P.65 参照  
2001年, 八戸市, 根市益三



アオモリマンテマ (B) P.67 参照  
1971年, 白神山地, 細井幸兵衛



ミチノクフクジュソウ (B) P.68 参照  
1989年, 十和田市, 細井幸兵衛



ハンショウヅル (B) P.69 参照  
1994年, 川内町, 細井幸兵衛



ハンゲショウ (B) P.72 参照  
2002年, つがる市 (旧森田村), 木村啓



ヤマアイ (B) P.77 参照  
1998年, 深浦町 (旧岩崎村), 木村啓

蘚苔類

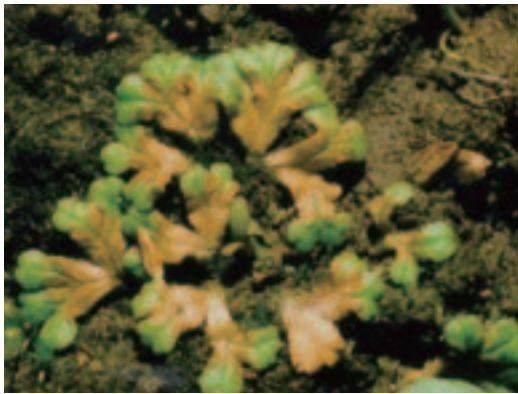


コシノヤバネゴケ標本 (B) P.122 参照  
1977年, 外ヶ浜町 (旧平館村), 柿崎敬一



カワゴケ (B) P.123 参照  
2003年, 六ヶ所村, 柿崎敬一





イチョウウキゴケ (B) P.124 参照  
2002 年, 西目屋村, 太田正文

地衣類



オオウラヒダイワタケ (A) P.138 参照  
1987 年, 佐井村, 柿崎敬一



バカマツタケ (B) P.149 参照  
1996 年, 青森市, 手塚豊



シロキツネノサカズキ (C) P.159 参照  
1995 年, 十和田市 (旧十和田湖町), 工藤伸一

淡水藻類



マリモ (A) P.132 参照  
2008 年, 小川原湖, 若菜勇

菌類



ヤチヒロヒダタケ (A) P.148 参照  
2002 年, 青森市, 工藤伸一



ヤマドリタケ (B) P.149 参照  
2003 年, 八甲田山, 工藤伸一



イモタケ (D) P.164 参照  
2007 年, 青森市, 工藤伸一

哺乳類



ニホンオオカミの後ろ足 (EX) P.167 参照  
1995年, 十和田市, 向山満 (正法寺所蔵標本)



ホンドノレンコウモリ (A) P.169 参照  
2005年, 六戸町, 向山満



コヤマコウモリ (A) P.170 参照  
2001年, 鱒ヶ沢町, 向山満



カワネズミ (LP) P.177 参照  
2003年, 白神山地, 小原良孝



ホンドザル (LP) P.177 参照  
2009年, むつ市, 磯山隆幸



ニホンイイズナ (LP) P.178 参照  
1988年, 弘前市, 向山満

鳥類



サンカノゴイ (A) P.182 参照  
2008年, 仏沼, 宮彰男



クマタカ (A) P.183 参照  
2006年, 西目屋村, 小山信行





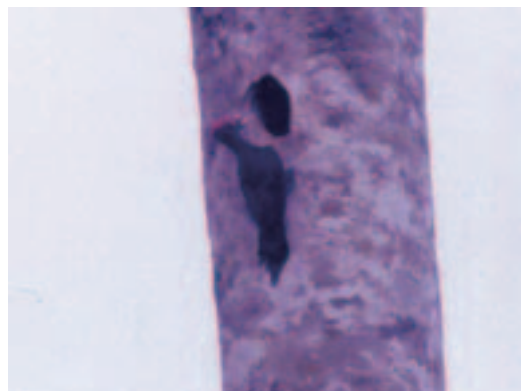
イヌワシ (A) P.183 参照  
2000年, 深浦町, 小山信行



ウズラ (A) P.184 参照  
2008年, おいらせ町, 宮彰男



シマクイナ (A) P.185 参照  
2007年, 仏沼, 宮彰男



クマゲラ (A) P.186 参照  
1986年, 鱒ヶ沢町, 小山信行



チゴモズ (A) P.187 参照  
1992年, 弘前市, 小山信行



オオセッカ (A) P.187 参照  
2007年, 仏沼, 宮彰男



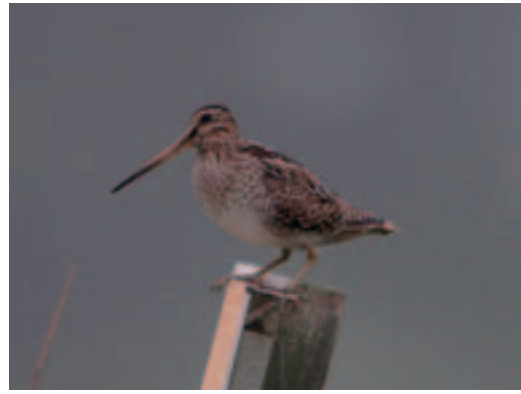
オオワシ (B) P.189 参照  
2002年, つがる市 (旧車力村), 小山信行



ハイタカ (B) P.190 参照  
2000年, 弘前市, 小山信行



チュウヒ (B) P.192 参照  
2008 年, 仏沼, 宮彰男



オオジシギ (B) P.195 参照  
2007 年, 仏沼, 宮彰男



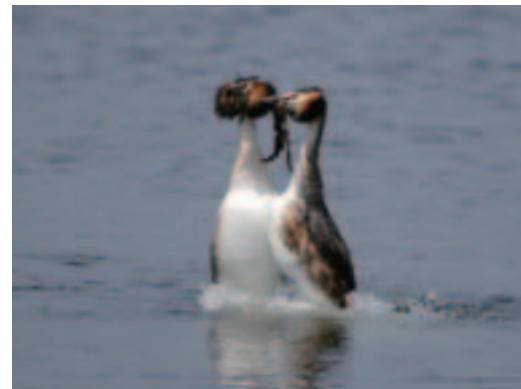
ツバメチドリ (B) P.196 参照  
2007 年, 仏沼, 宮彰男



オオコノハズク (B) P.197 参照  
1982 年, 平川市 (旧平賀町), 小山信行



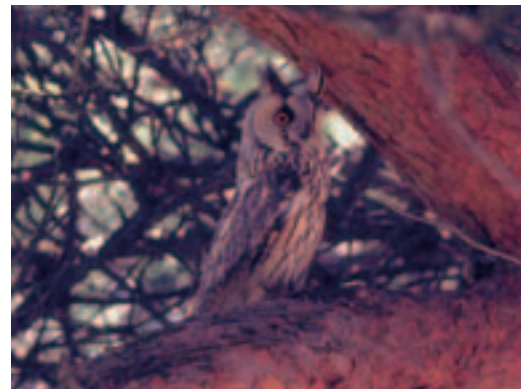
コジュリン (B) P.199 参照  
2007 年, 仏沼, 宮彰男



カンムリカイツブリ (C) P.200 参照  
2007 年, 小川原湖, 宮彰男



コクガン (C) P.200 参照  
2007 年, 八戸市, 宮彰男



トラフズク (C) P.207 参照  
1995 年, 弘前市, 小山信行





ホシガラス (C) P.210 参照  
2006 年, 東通村, 宮彰男

爬虫類



タカチホヘビ (A) P.214 参照  
2006 年, 西目屋村, 向山満

両生類

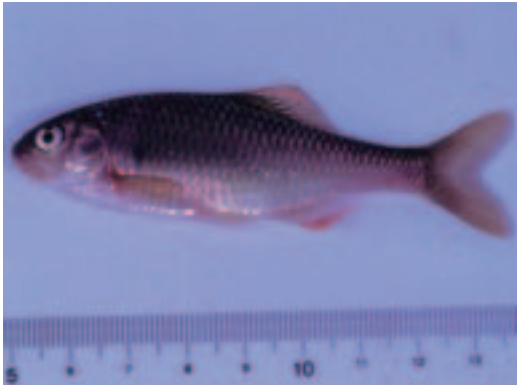


カジカガエル (D) P.220 参照  
2009 年, 弘前市, 向山満

汽水・淡水魚類



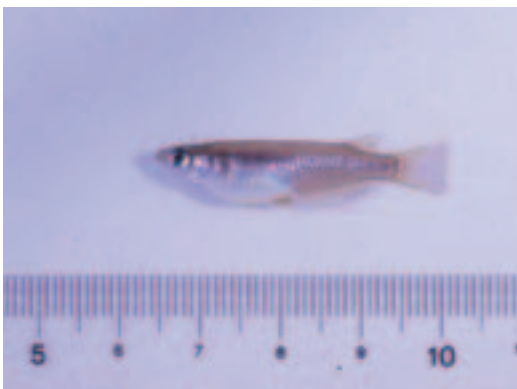
シナイモツゴ (A) P.224 参照  
2006 年, 青森市, 五十嵐正俊



ヤリタナゴ (A) P.224 参照  
2002 年, つがる市 (旧木造町), 佐原雄二



ハナカジカ (A) P.225 参照  
1984 年, 田子町, 向山満



メダカ北日本集団 (B) P.226 参照  
1999 年, 青森市, 佐原雄二



トミヨ属淡水型 (B) P.227 参照  
2006 年, 弘前市 (旧岩木町), 齊藤仁咲

昆虫類



トラフトンボ (EX) P.235 参照  
2000年, 鹿児島県, 奈良岡弘治



ムツアカネ (EX) P.235 参照  
2000年, 北海道, 奈良岡弘治



オオルリシジミ (EX) P.235 参照  
1978年, 岩木山, 工藤忠



ウマノオバチ (A) P.240 参照  
1937年, つがる市 (旧森田村), 山田雅輝 (黒石市所蔵標本)



ルリモンハナバチ (A) P.240 参照  
1965年, 平川市 (旧平賀町), 山田雅輝



ツマジロウラジャノメ (A) P.242 参照  
2006年, 深浦町, 工藤誠也



ウスバカマキリ (B) P.246 参照  
2002年, 五所川原市 (旧市浦村), 市田忠夫



タイワンナガマキバサシガメ (B) P.246 参照  
2002年, 六ヶ所村, 市田忠夫





ベニモンマダラ (B) P.249 参照  
2006年, 青森市, 室谷洋司



ギンイチモンジセセリ (B) P.249 参照  
2008年, 青森市, 工藤忠



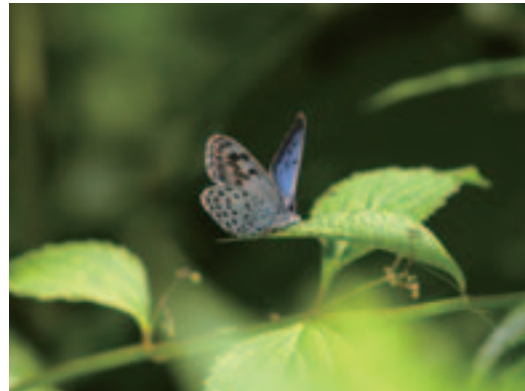
ヒメギフチョウ (B) P.250 参照  
2008年, 夏泊半島, 工藤誠也



スジボンヤマキチョウ (B) P.250 参照  
2007年, つがる市, 工藤忠



カバイロシジミ (B) P.250 参照  
2006年, 今別町, 工藤誠也



オオゴマシジミ (B) P.251 参照  
2007年, 七戸町, 工藤誠也



キタアカシジミ (B) P.251 参照  
2008年, つがる市, 工藤忠



ヤスマツトビナナフシ (C) P.255 参照  
1998年, 五所川原市, 山田雅輝



オンレヤマミズギワゴミムシ (C) P.259 参照  
1995年, むつ市恐山, 山内智



エゾゲンゴロウモドキ (C) P.260 参照  
2000年, 深浦町十二湖, 山内智



オオチャイロハナムグリ (C) P.261 参照  
1998年, 十和田市八甲田山地, 山内智



チビヒサゴメツキ (C) P.262 参照  
1992年, 弘前市岩木山, 山内智



ニッポンハナダカバチ (C) P.267 参照  
1997年, つがる市(旧木造町), 山田雅輝



シモヤマギングチ (C) P.267 参照  
1997年, 八甲田山, 山田雅輝



ニトベギングチ (C) P.268 参照  
1998年, 白神山地, 山田雅輝



シロアシクサレダマバチ (C) P.268 参照  
2007年, 岩木山, 山田雅輝





フチグロトゲエダシャク (C) P.273 参照  
2008年, 五所川原市, 工藤忠



ガロアムシ (D) P.277 参照  
1998年, 大鰐町, 山田雅輝



トガシオオナギナタハバチ (D) P.284 参照  
1999年, 八甲田山, 山田雅輝



ルイヨウマダラテントウ (LP) P.297 参照  
1995年, 十和田市 (旧十和田湖町) 葛, 安富和男

昆虫類以外の無脊椎動物



キタハウネンエビ (A) P.306 参照  
2006年, 東通村, 大八木昭



クビキレガイモドキ (B) P.307 参照  
2009年, 芦崎, 大八木昭



イソコモリグモ (B) P.308 参照  
1999年, つがる市 (旧木造町), 山田雅輝



ニホンザリガニ (B) P.308 参照  
2009年, 佐井村, 大八木昭



# — 目 次 —

表紙写真説明  
発刊にあたって  
口絵

## 1 総論

- (1) 青森県レッドデータブック（2010年改訂版）作成の経緯と目的 ……………1
- (2) 検討体制 ……………1
- (3) 青森県レッドデータブック（2010年改訂版）カテゴリー定義 ……………3
- (4) 選定結果 ……………4
- (5) 凡 例 ……………15

## 2 各論

- (1) 青森県の野生生物の概要 ……………17
- (2) 植物
  - 1) 維管束植物
    - ①概説 ……………19
    - ②本文 ……………20
    - ③引用文献 ……………119
  - 2) 蘚苔類
    - ①概説 ……………121
    - ②本文 ……………122
    - ③引用文献 ……………130
  - 3) 淡水藻類
    - ①概説 ……………131
    - ②本文 ……………132
    - ③引用文献 ……………136
  - 4) 地衣類
    - ①概説 ……………137
    - ②本文 ……………138
    - ③引用文献 ……………146
  - 5) 菌類
    - ①概説 ……………147
    - ②本文 ……………148
    - ③引用文献 ……………165
- (3) 脊椎動物
  - 1) 哺乳類
    - ①概説 ……………166
    - ②本文 ……………167
    - ③引用文献 ……………179

2) 鳥類	
①概説	181
②本文	182
③引用文献	212
3) 爬虫類	
①概説	213
②本文	214
③引用文献	217
4) 両生類	
①概説	218
②本文	219
③引用文献	221
5) 汽水・淡水魚類	
①概説	222
②本文	223
③引用文献	233
(4) 無脊椎動物	
1) 昆虫類	
①概説	234
②本文	235
③引用文献	298
2) 昆虫類以外の無脊椎動物	
①概説	305
②本文	306
③引用文献	316
(5) 青森県レッドリスト（2006年改訂増補版）からの変更点一覧	
1) 植物	317
2) 脊椎動物	319
3) 無脊椎動物	321
(6) 青森県レッドリスト（2006年改訂増補版）からの和名変更一覧	323
3 索引	
青森県レッドデータブック（2010年改訂版）選定種一覧	325
あ と が き	335
裏表紙写真説明	

# 1 総論



## (1) 青森県レッドデータブック(2010年改訂版)作成の経緯と目的

県は、平成12年3月に本県に生育・生息する野生生物のうち、特に希少な種について取りまとめた「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック－」(以下、県RDBという。)、平成18年3月に「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック－維管束植物以外編－」(以下、県RDB維管束以外編という。)、 「青森県の希少な野生生物－青森県レッドリスト(2006年改訂増補版)－」(以下、県RLという。)を作成・発刊しました。

県RLでは888種の希少野生生物を選定しており、各種行政機関や教育・研究機関、県民への普及啓発等に活用されているところですが、現在の選定種及びカテゴリーについては、県RL作成後に得られた新たな知見や外来生物の侵入等による生育・生息環境の変化等により、現況を必ずしも反映しておらず、見直す必要がありました。

そこで、県では、これまで県RDB、県RDB維管束以外編、県RLを作成するときにご協力いただいた県内の野生生物の専門家を中心に構成された「青森県レッドデータブック改訂検討会」により、現状に沿った形での再検討を行い、結果、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2010年改訂版)－」として取りまとめました。

自然環境や生態系は、一度壊されてしまうと復元するのは非常に困難です。RDB、RLに選定されている希少野生生物は、県内にこれら良好な自然環境が保全されているかを判断する指標ともされるべき種であり、各種開発行為や採取・捕獲等においても事業主体や県民一人一人の配慮が必要であると考えます。

## (2) 検討体制

県内の野生生物の専門家により「青森県レッドデータブック改訂検討会」を組織し、調査及び選定・執筆作業を行いました。

さらに、検討会委員以外の研究者及び専門家の方々にも情報収集や選定作業等について、ご協力をいただきました。

### ○対象分野

維管束植物

蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類

哺乳類

鳥類

爬虫類、両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

昆虫類以外の無脊椎動物



## ○青森県レッドデータブック改訂検討会

### 【会長】

奈良 典明

### 【植物分科会】

(維管束植物)	木村 啓、根市 益三、細井 幸兵衛
(蘚苔類、地衣類)	柿崎 敬一
(淡水藻類)	原田 幸雄*
(菌 類)	原田 幸雄、工藤 伸一

### 【脊椎動物分科会】

(哺乳類)	小原 良孝*、向山 満
(鳥 類)	小山 信行
(爬虫類、両生類)	奈良 典明
(汽水・淡水魚類)	佐原 雄二

### 【無脊椎動物分科会】

(昆虫類)	山田 雅輝*、奈良岡 弘治、室谷 洋司、山内 智
(昆虫類以外の無脊椎動物)	大高 明史、大八木 昭

## ○青森県レッドデータブック執筆協力者

(維管束植物)	齋藤 信夫
(淡水藻類)	平井 正和
(鳥 類)	阿部 誠一、宮 彰男、関下 斉
(昆虫類)	三浦 博、市田 忠夫、櫛田 俊明、佐藤 隆志、 佐藤 博、工藤 周二、今 純一、須摩 靖彦
(昆虫類以外の無脊椎動物)	水木 隆治、石田 幸子、鶴崎 展巨、武田 哲

※分科会座長

(順不同)

### (3) 青森県レッドデータブック（2010年改訂版）カテゴリー定義

カテゴリーについては、1) 環境省版レッドリストと比較が出来ること、2) よりわかりやすい表現であること等を踏まえ、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドリスト（2006年改訂増補版）－」と同じものを採用しました。

#### カテゴリー定義

区 分	基本概念	要 件	対応する 環境省カテゴリー
絶滅野生生物 EXランク	県内では、すでに絶滅したと考えられる野生生物	過去の記録・標本等において生息・生育が確認されているが、現在は県内で確認できない種	絶滅 EX 野生絶滅 EW
最重要希少野生生物 Aランク	県内では、絶滅の危機に瀕している野生生物	生息・生育数がきわめて少なく、または生息・生育環境も制限される種で、近い将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧ⅠA類 CR 絶滅危惧ⅠB類 EN
重要希少野生生物 Bランク	県内では、絶滅の危機が増大している野生生物	生息・生育数がかなり少なく、または、生息・生育環境もかなり限られた種で、将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧Ⅱ類 VU
希少野生生物 Cランク	県内では、生息・生育を存続する基盤が脆弱な野生生物	生息・生育数が少なく、生息・生育環境も限られた種で、現地点では直ちに絶滅危惧とする程ではないが、環境の変化によっては個体数の更なる減少が危惧され、県内での絶滅が心配される種	準絶滅危惧 NT
要調査野生生物 Dランク	県内では、生息・生育情報が不足している野生生物	限定された生息・生育環境や低生息密度などから注目される種であるが、県内での確認例がきわめて少なく、生息・生育実態等が不明なため評価が保留されている種	情報不足 DD
地域限定希少 野生生物 LPランク	県内では、地域内に孤立している個体群で、地域レベルでの絶滅のおそれが高い野生生物	生息・生育状況・学術的価値・生物地理学的観点から特に保護に留意すべき、地域個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 LP

#### (4) 選定結果

青森県の希少な野生生物として、今回のレッドデータブック見直しにより選定された種の内訳及び一覧は次のとおりです。

選定種総括表

カテゴリー 分類群	EX	A	B	C	D	LP	合計
植物合計	7	128	136	100	77	1	449
維管束植物計	7	124	113	51	15	0	310
シダ植物	0	6	5	4	0	0	15
種子植物	7	118	108	47	16	0	296
維管束植物以外計	0	4	23	49	62	1	139
蘚苔類	0	0	9	13	6	0	28
淡水藻類	0	1	0	0	9	1	11
地衣類	0	1	3	9	17	0	30
菌類	0	2	11	27	30	0	70
動物合計	9	54	80	157	152	15	467
脊椎動物計	6	28	51	57	13	9	164
哺乳類	5	4	7	6	2	5	29
鳥類	0	18	36	42	4	0	100
爬虫類	0	1	2	0	1	0	4
両生類	0	0	0	3	1	0	4
汽水・淡水魚類	1	5	6	6	5	4	27
無脊椎動物計	3	26	29	100	139	6	303
昆虫類	3	23	24	93	121	1	265
昆虫類以外の無脊椎動物	0	3	5	7	18	5	38

選定種結果の推移

カテゴリー 分類群	EX	A	B	C	D	LP	合計
県レッドデータブック改訂版(2010.3)	16	182	216	257	230	15	916
県レッドリスト改訂増補版(2006.3)	16	161	205	237	253	16	888
県レッドデータブック(2000.3)	17	116	144	156	178	13	624

(注) 県レッドデータブック(2000.3)には、維管束植物以外(蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類)は含まれていません。

選定種一覧（網掛けは「県レッドリスト 2006 年改訂増補版」後の新規追加）

植物

【維管束植物】

《E X》

ヒシモドキ

フサタヌキモ

ヤナギタウコギ

ハナヒョウタンボク

トウゴクヘラオモダカ

カンエンガヤツリ

タチガヤツリ

《A》

スギラン

チシマヒカゲノカズラ

キジノオシダ

チャセンシダ

アカハナワラビ

イブリハナワラビ

コガネギシギシ

ヤナギヌカボ

エンビセンソウ

クシロワチガイソウ

チシマツメクサ

イトハコベ

エゾハコベ

ミドリアカザ

タカネグンバイ

オキナグサ

シコタンキンポウゲ

チトセバイカモ

ベニバナヤマシャクヤク

オサバグサ

エゾキケマン

チチツパベンケイソウ

レブンイワレンゲ

アズマツメクサ

エゾノウワミズザクラ

ミヤマダイコンソウ

ホザキシモツケ

ホロムイイチゴ

エゾシモツケ

クロビイタヤ

キバナノコマノツメ

エイザンスミレ

カラフトイチヤクソウ

バイカツツジ

スズメウリ

スギナモ

マツバニンジン

ケゴンアカバナ

アシボソアカバナ

ヒメアカバナ

ムラサキセンブリ

キバナシャクナゲ

チシマツガザクラ

エゾノツガザクラ

サクラソウ

エゾノハナシノブ

コカモメヅル

バシクルモン

バアソブ

モイワシャジン

ムラサキ

ツルカメバソウ

カイジンドウ

ルリハッカ

ムシャリンドウ

エゾナミキソウ

イヌニガクサ

ヒメハッカ

マルバノサワトウガラシ

ヒナノウスツボ

クワガタソウ

ヤチコタヌキモ

ミミカキグサ

オオタヌキモ

エゾヒョウタンボク

ベニバナヒョウタンボク

ケヨノミ

マツムシソウ

ヒメヒゴタイ

ヒメガンクビソウ

ムカシヨモギ

エゾトウヒレン

ナガバキタアザミ

アキノハハコグサ

ヒンジモ

ホソバノシバナ

ツツイトモ

カワツルモ

ササエビモ

トチカガミ

イトトリゲモ

ヒメユリ

クロミノコジマエンレイソウ

ウラゲキヌガサソウ

シロウマアサツキ

ヒオウギ

ミクリゼキショウ

カラフトホシクサ

タチイチゴツナギ

オオトボシガラ

エゾカモジグサ

タルマイスゲ

ジョウロウスゲ

クリイロスゲ

クグスゲ	イチョウシダ	アイヌタチツボスミレ
ヒメウシオスゲ	ネズミサシ	アリアケスミレ
スジヌマハリイ	ミヤマツチトリモチ	アナマスミレ
チャボイ	ヌカボタデ	ホソバアカバナ
ヒメワタスゲ	アオモリマンテマ	ナガバツガザクラ
ウシオスゲ	オオレイジンソウ	ミチノクコザクラ
マシケスゲモドキ	センウズモドキ	オオサクラソウ
クジュウツリスゲ	ミチノクフクジュソウ	ヒナザクラ
イッポンスゲ	フクジュソウ	ユキワリソウ
オクタマツリスゲ	エゾノリュウキンカ	ユキワリコザクラ
ハタベスゲ	ハンショウヅル	アイナエ
ホソバオゼヌマスゲ	イワカラマツ	ホソバツルリンドウ
チシママツバイ	ノカラマツ	アサザ
ミスズラン	コキツネノポタン	チョウジソウ
サルメンエビネ	アズマレイジンソウ	スズサイコ
ヒメホテイラン	イイギリ	キセワタ
トケンラン	トガクシソウ	ヤマジソ
アツモリソウ	ナンブソウ	デワノタツナミソウ
ヒロハツリシュスラン	ハンゲショウ	ミヤマウツボグサ
フジチドリ	ヤマシャクヤク	ツルカノコソウ
クシロチドリ	エゾイヌナズナ	ヒヨドリジョウゴ
フガクスズムシソウ	ツガルミセバヤ	オニシオガマ
ヤチラン	シコタンソウ	シラガミクワガタ
サカネラン	カラフトダイコンソウ	キクモ
タカネトンボ	オオタカネイバラ	エチゴトラノオ
イイヌマムカゴ	ホザキナナカマド	タヌキモ
ベニシュスラン	シロバナノヘビイチゴ	ヒメタヌキモ
ヒメミズトンボ	ミチノクナシ	ムラサキミミカキグサ
モイワラン	フジカンゾウ	リンネソウ
ネムロコウホネ	タチフウロ	ウコンウツギ
《B》	クロツリバナ	キキョウ
オオエゾデンダ	ハナビゼリ	オニオトコヨモギ
デンジソウ	マルミノウルシ	アサギリソウ
サンショウモ	ヤマアイ	タカサゴソウ
リシリシノブ	オオバタチツボスミレ	ウスユキソウ

クモマニガナ  
フタバムグラ  
マルバオモダカ  
アギナシ  
コバノヒルムシロ  
リュウノヒゲモ  
イトクズモ  
イトモ  
イトイバラモ  
カキツバタ  
コアマモ  
ヒメカイウ  
ヤマトミクリ  
タマミクリ  
ヒメミクリ  
エゾミクリ  
エゾホシクサ  
ネムロホシクサ  
ホソバナアマナ  
ホロムイクグ  
オオクグ  
ヌイオスゲ  
ネムロスゲ  
タカネクロスゲ  
コアニチドリ  
エビネ  
キンセイラン  
ナツエビネ  
ユウシュンラン  
キンラン  
コアツモリソウ  
クマガイソウ  
ハマカキラン  
ミズトンボ  
ウチョウラン

ガッサンチドリ  
トキソウ  
サワラン  
クゲヌマラン  
《C》  
ヒメミズニラ  
ミズニラ  
イワヒバ  
コウライイヌワラビ  
ノダイオウ  
アオモリミミナグサ  
タチハコベ  
ナガバツメクサ  
オオユリワサビ  
ハクサンハタザオ  
ハコダテキリンソウ  
ヒメキンポウゲ  
オオウマノアシガタ  
ミチノクサイシン  
エゾオトギリ  
タコノアシ  
ヤシャビシャク  
ツルキジムシロ  
コガネイチゴ  
ヒロハノカワラサイコ  
チシマフウロ  
ノウルシ  
シナノタイゲキ  
コモチレンゲ  
ゲンジスミレ  
イソスミレ  
タチモ  
ハクサンサイコ  
オオウメガサソウ  
ハイハマボッサ

フナバラソウ  
タチガシワ  
ハマゴウ  
テイネニガクサ  
ビロードトラノオ  
イヌタヌキモ  
カノコソウ  
ホロマンノコギリソウ  
オオバヨモギ  
ミチノクヤマタバコ  
オオニガナ  
オオマルバノホロシ  
シバナ  
ノカンゾウ  
ミズアオイ  
セキショウイ  
ミクリ  
ナガエミクリ  
エゾサワスゲ  
ミチノクホタルイ  
ハクウンラン  
《D》  
アカミノルイヨウシヨウマ  
ミズキカシグサ  
コオニタビラコ  
タカサブロウ  
ヤマホロシ  
ネジリカワツルモ  
スゲアマモ  
タチアマモ  
ヒロハトリゲモ  
オオトリゲモ  
シラオイエンレイソウ  
ザラツキヒナガリヤス  
マルミスブタ

イトナルコスゲ

オオミズトンボ

【蘚苔類】

《B》

オオミズゴケ

コシノヤバネゴケ

クロカワゴケ

カワゴケ

トガリカイガラゴケ

ササオカゴケ

マツカリタケナガゴケ

ウキゴケ

イチョウウキゴケ

《C》

アオゴケ

マユハケゴケ

ヒロスジツリバリゴケ

シロシラガゴケ

ホソバゴケ

カサゴケ

オオヒモゴケ

モミシノブゴケ

ナガスジハリゴケ

ササバゴケ

ヤリノホゴケ

ホソバツヤゴケ

ミヤマミズゼニゴケ

《D》

ホソベリミズゴケ

シマオバナゴケ

オオサナダゴケ

オソレヤマヤバネゴケ

ケスジヤバネゴケ

ハッコウダゴケ

【淡水藻類】

《A》

マリモ

《D》

ケナガシヤジクモ

シヤジクモ

カタシヤジクモ

ハダシシヤジクモ

ヒメフラスコモ

ヒメカワモズク

カワモズク

アオカワモズク

ユタカカワモズク

《LP》

ウイトロキエラ サリナ

【地衣類】

《A》

オオウラヒダイワタケ

《B》

オオイワブスマ

シワイワタケ

イワタケ

《C》

マキバエイランタイ

フクレセンシゴケ

バンダイキノリ

ミヤマクグラ

オオサビイボゴケ

コウヤクゴケ

チヂレウラミゴケ

ヘリトリツメゴケ

ヤスデゴケモドキ

《D》

ウチキウメノキゴケ

シナノウメノキゴケ

ニセカラタチゴケ

ツツレカラタチゴケモドキ

フォーリザクロゴケ

チャザクロゴケ

クロイボゴケモドキ

ヒメジョウゴゴケ

キゴケ

ヤマトキゴケ

ムクムクキゴケモドキ

ニセチャハシゴケ

アカツメゴケ

モクズゴケ

カワホリゴケ

ヤマトカワホリゴケ

アオキノリ

【菌類】

《A》

ヤチヒロヒダタケ

コカンバタケ

《B》

バカマツタケ

コササクレシロオニタケ

ヤマドリタケ

ドクヤマドリ

フサハリタケ

チョレイマイタケ

シロマイタケ

カバアナタケ

クロムラサキハナビラタケ

キツネノサカズキ

トガリフカアミガサタケ

《C》

ツバヒラタケ

ダイダイヌメリガサ

ウスムラサキガサ



シロタモギタケ	オオモミタケ	カグヤコウモリ
ツノシメジ	クロキツネタケ	ヤマコウモリ
オドタケ	ヒメムラサキシメジ	ヒナコウモリ
ホシアンズタケ	オニテングタケ	ニホンウサギコウモリ
フサクギタケ	キノオオフクロタケ	ユビナガコウモリ
ヒメヌメリイグチ	シワカラカサモドキ	テングコウモリ
アイゾメイグチ	オオツガタケ	《C》
アミハナイグチ	コゲチャヒロハアンズタケ	シナノミズラモグラ
ムラサキヤマドリタケ	アカモミタケ	ニホンコテングコウモリ
アシナガイグチ	アカジコウ	ホンドオコジョ
アカハツモドキ	アカエノキンチャヤマイグチ	ホンドモモンガ
ニカワウロコタケ	ハウキタケ	ニッコウムササビ
タマチヨレイタケ	エツキヒメサカズキタケ	ヤマネ
ツヤナシマンネンタケ	ヒトクチタケ	《D》
カンバタケ	ツガノマンネンタケ	クロオオアブラコウモリ
ニンギョウタケ	カンゾウタケ	ヒメヒナコウモリ
ホンショウロ	トゲホコリタケ	《LP》
ムカシオオミダレタケ	シロキクラゲ	カワネズミ
ツバキキンカクチャワンタケ	テンガイカブリ	ホンドザル（下北半島）
クチキトサカタケ	イモタケ	ホンドザル（津軽半島）
オオミノミミブサタケ	<b>脊椎動物</b>	ニホンイイズナ
オオズキンカブリ	<b>【哺乳類】</b>	ニホンツキノワグマ
シロキツネノサカズキ	《EX》	<b>【鳥類】</b>
カエンタケ	ニホンオオカミ	《A》
《D》	ニホンカワウソ	コシジロウミツバメ
カワキタケ	ニホンアシカ	サンカノゴイ
ニオイカワキタケ	ニホンイノシシ	オオヨシゴイ
ナナイロヌメリタケ	ホンシュウジカ	ミゾゴイ
アケボノタケ	《A》	クマタカ
ホンシメジ	クロホオヒゲコウモリ	イヌワシ
ヤチナラタケ	ホンドノレンコウモリ	ウズラ
ツチヒラタケ	モリアブラコウモリ	ヒメクイナ
ヒメムキタケ	コヤマコウモリ	ヒクイナ
ニセシジミタケ	《B》	シマクイナ
ミヤマシメジ	フジホオヒゲコウモリ	ヘラシギ

コアジサシ  
ケイマフリ  
コノハズク  
クマゲラ  
チゴモズ  
アカモズ  
オオセッカ

《B》

ヨシゴイ  
クロサギ  
シノリガモ  
ミサゴ  
オジロワシ  
オオワシ  
オオタカ  
ツミ  
ハイタカ  
ケアシノスリ  
サシバ  
ハイイロチュウヒ  
チュウヒ  
ハヤブサ  
クイナ  
イカルチドリ  
ケリ  
サルハマシギ  
キリアイ  
アカアシシギ  
ダイシャクシギ  
ハウロクシギ  
ヤマシギ  
オオジシギ  
アオシギ  
セイタカシギ  
ツバメチドリ

オオコノハズク  
アオバズク  
ヨタカ  
アカショウビン  
ブッポウソウ  
サンショウクイ  
サンコウチョウ

コジュリン

オオジュリン

《C》

カンムリカイツブリ  
コクガン  
マガン  
オオヒシクイ  
ヒシクイ  
トモエガモ  
ヨシガモ  
オカヨシガモ  
シマアジ  
ハシビロガモ  
ビロードキンクロ  
コオリガモ  
ハチクマ  
チゴハヤブサ  
コチヨウゲンボウ  
チヨウゲンボウ  
ヤマドリ  
バン  
タゲリ  
ヒバリシギ  
オジロトウネン  
ウズラシギ  
コオバシギ  
オバシギ  
ソリハシシギ

オグロシギ

アオバト

ジュウイチ

トラフズク

フクロウ

ヤマセミ

アリスイ

オオアカゲラ

セグロセキレイ

カヤクグリ

コマドリ

マミジロ

クロツグミ

キバシリ

ノジコ

クロジ

ホシガラス

《D》

ヒメウ

セッカ

シマアオジ

イスカ

【爬虫類】

《A》

タカチホヘビ

《B》

ヒバカリ

シロマダラ

《D》

クサガメ

【両生類】

《C》

クロサンショウウオ

トウホクサンショウウオ

アカハライモリ

《D》  
**カジカガエル**  
**【汽水・淡水魚類】**  
 《EX》  
 イトウ  
 《A》  
 シナイモツゴ  
 ヤリタナゴ  
 タナゴ  
 ギバチ  
 ハナカジカ  
 《B》  
 スナヤツメ北方種  
 メダカ北日本集団  
 イトヨ  
 トミヨ属淡水型  
 カジカ小卵型  
 カジカ中卵型  
 《C》  
**カワヤツメ**  
**エゾウグイ**  
 シロウオ  
 ヒモハゼ  
**カンキョウカジカ**  
**カジカ大卵型**  
 《D》  
**キンブナ**  
**マルタウグイ**  
 アカオビシマハゼ  
 チチブ  
 アユカケ  
 《LP》  
 ニシン  
 サクラマス  
 アブラハヤ

ウグイ  
**無脊椎動物**  
**【昆虫類】**  
 《EX》  
 トラフトンボ  
 ムツアカネ  
 オオルリジミ  
 《A》  
 カラカネイトトンボ  
 オオセスジイトトンボ  
 コバネアオイトトンボ  
 アオハダトンボ  
 ホンサナエ  
 ヒメサナエ  
 メガネサナエ  
 カトリヤンマ  
 ヤブヤンマ  
 ハネヒロエゾトンボ  
 キバネモリトンボ  
 ハッチョウトンボ  
 タガメ  
 ウマノオバチ  
 ルリモンハナバチ  
 チャマダラセセリ  
 ホシチャバネセセリ  
 ヤマキチョウ  
 クロシジミ  
 オオウラギンヒョウモン  
 ツマジロウラジャノメ  
 ミツモンケンモン  
 ノシメコヤガ  
 《B》  
 キイトトンボ  
 ミヤマサナエ  
 コシボソヤンマ

サラサヤンマ  
 マイコアカネ  
 オオキトンボ  
 ウスバカマキリ  
 タイコウチ  
 タイワンナガマキバサシガメ  
 キバネツノトンボ  
 マークオサムシ  
 シモキタメクラチビゴミムシ  
 イワキメクラチビゴミムシ  
 カワラハンミョウ  
 ヒメハンミョウ海浜型  
 ルリジガバチ  
 ベニモンマダラ  
 ギンイチモンジセセリ  
 ヒメギフチョウ  
 スジボソヤマキチョウ  
 カバイロシジミ  
 オオゴマシジミ  
 キタアカシジミ  
 クビグロケンモン  
 《C》  
 ルリイトトンボ  
 モートンイトトンボ  
 ハグロトンボ  
 オナガサナエ  
 ウチワヤンマ  
 コヤマトンボ  
 ハラビロトンボ  
 カオジロトンボ  
 ショウジョウトンボ  
 オオシオカラトンボ  
**ヒメアカネ**  
 オオゴキブリ  
 ヤスマツトビナナフシ



ババアメンボ	ツガルクロミズギワコメツキ	エゾヤエナミシャク
キタヒメアメンボ	ハヤチネベニコメツキ	シロマダラカバナミシャク
エサキナガレカタビロアメンボ	ゲンジボタル	フチグロトゲエダシャク
コオイムシ	ヒゲブトハナカミキリ	ダイセツヤガ
ミズムシ	ミチノクケマダラカミキリ	ヨスジカパイロアツバ
モンキカスミカメ	ヒメビロウドカミキリ	ミスジキリガ
ヤセオオヒラタカメムシ	キアシネクイハムシ	ガマヨトウ
ヒメミズギワカメムシ	キイロカメノコハムシ	オオチャバネヨトウ
ツマグロマキバサシガメ	ベニカメノコハムシ	《D》
ゴミアシナガサシガメ	スジキイロカメノコハムシ	エビガラトビムシ
コハンミョウ	オオルリハムシ	エサキウミトビムシ
ホソハンミョウ	オナガアシフトコバチ	キボシアオイボトビムシ
ハンミョウ	ニッポンハナダカバチ	コシダカマルトビムシ
オオワニメクラチビゴミムシ	シモヤマギングチ	ミツワマルトビムシ
シラカミメクラチビゴミムシ	ササキリギングチ	エゾエンマコオロギ
オソレヤマミズギワゴミムシ	ニトベギングチ	カヤコオロギ
マルコガタノゲンゴロウ	エチゼンヒメハナバチ	ショウリョウバッタモドキ
ゲンゴロウ	シロアシクサレダマバチ	カワラバッタ
オオシマゲンゴロウ	トワダオオカ	セグロバッタ
ヒメケシゲンゴロウ北日本亜種	ソトシロスジミズメイガ	トゲヒシバッタ
サロベツナガケシゲンゴロウ	アオバセセリ	ガロアムシ
ナガケシゲンゴロウ	ミヤマチャバネセセリ	ニトベツノゼミ
エゾゲンゴロウモドキ	オオチャバネセセリ	ハマベナガカメムシ
ゲンゴロウモドキ	スジグロチャバネセセリ	シロヘリツチカメムシ
エゾコガムシ	ヒメシロチョウ	ウスバセンブリ
ツガルホソシテムシ	ヒメシジミ	チョウカイヒメクロオサムシ
オオチャイロハナムグリ	ウラナミアカシジミ	シラカミナガチビゴミムシ
ダイコクコガネ	ゴマシジミ	ミツメナガチビゴミムシ
キベリマルヒサゴコメツキ	ミヤマカラスシジミ	イワキナガチビゴミムシ
シモヤマヒサゴコメツキ	テングチョウ	フトクチヒゲヒラタゴミムシ
チビヒサゴコメツキ	ホシミスジ	オオヒョウタンゴミムシ
ミチノクシモフリコメツキ	オオムラサキ	クマガイクロアオゴミムシ
トワダアカコメツキ	ヒョウモンチョウ	シマゲンゴロウ
ツガルアカコメツキ	ウラギンスジヒョウモン	ヒゲブトコツブゲンゴロウ
ムツチャバネコメツキ	ヒカゲチョウ	オオクワガタ
ババアカコメツキ	クロフカバシャク	ミヤマダイコクコガネ

カタアカチビオオキノコムシ	アギトギングチ	ヘリボシキノコヨトウ
ババヒメテントウ	キスケギングチ	オオシラホシヤガ
ムナグロチャイロテントウ	コシジロギングチ	クロヤガ
ホクチチビハナカミキリ	キュビギングチ	オイワケクロヨトウ
ヤマトキモンハナカミキリ	ハクトウアワフキバチ	シロオビヨトウ
イガブチヒゲハナカミキリ	マエダテツチスガリ	ギンモンセダカモクメ
オオハナカミキリ	ヤスマツフシダカコンボウハナバチ	ハマセダカモクメ
コウヤホソハナカミキリ	シロスジフデアシハナバチ	セプトモクメヨトウ
ヒゲジロホソコバナカミキリ	クズハキリバチ	エゾスジヨトウ
オニホソコバナカミキリ	カグヤキマダラハナバチ	ヨコスジヨトウ
ヨコヤマヒメカミキリ	オカモトキマダラハナバチ	ウスキモンヨトウ
サドチビアメイロカミキリ	ハイイロヒゲナガハナバチ	シロミミチビヨトウ
ホソツヤヒゲナガコバナカミキリ	ニセハイイロマルハナバチ	ハイイロヨトウ
オダヒゲナガコバナカミキリ	ヒメキテンシロツトガ	ウスクモヨトウ
ムモンベニカミキリ	モリオカツトガ	ホソバウスキヨトウ
ハセガワトラカミキリ	マンレイカギバ	ヒメシロテンアオヨトウ
トウホクトラカミキリ	ナガトガリバ	アルプスギンウワバ
ヒトオビチビカミキリ	ヨツモンマエジロアオシャク	ヒメシロシタバ
ホンドアカガネカミキリ	チャホシホソバナミシャク	フシキキシタバ
ヨコヤマヒゲナガカミキリ	シラナミナミシャク	ウゴウンモンツマキリアツバ
トホシカミキリ	ギフウスキナミシャク	ハスオビアツバ
ヤツボシカミキリ	キジマソトグロナミシャク	カサイヌマアツバ
シロオビドイカミキリ	トビスジトガリナミシャク	《LP》
オオヨモギハムシ	ホソスジハイイロナミシャク	ルイヨウマダラテントウ
クロスジカメノコハムシ	ヒメウラベニエダシャク	【昆虫類以外の無脊椎動物】
トガシオオナギナタハバチ	カバシャク	《A》
オキナワシリアゲコバチ	イブキスズメ	タカホコシラトリ
オオセイボウ	ミスジピロードスズメ	ツガルザリガニミミズ
イワタツツベッコウ	コウチスズメ	キタホウネンエビ
フタモンベッコウ	ヘリスジシャチホコ	《B》
オオハムシドロバチ	アマギシャチホコ	クビキレガイモドキ
ミカドジガバチ	キタオオコブガ	アオモリザリガニミミズ
ヤマトコトガタバチ	オオモリケンモン	ミズグモ
コウノスジガバチモドキ	ネジロシマケンモン	イソコモリグモ
シモヤマジガバチモドキ	タテスジケンモン	ニホンザリガニ
エゾアリマキバチ	ウスハイイロケンモン	

《C》

トウホクコガタウズムシ  
キタシロウズムシ  
ハコダテヤマキサゴ  
エゾコギセル  
ミチノクマイマイ  
カワシンジュガイ  
サワガニ

《D》

エゾマメタニシ  
ミズシタダミ  
ニホンミズシタダミ  
エゾミズゴマツボ  
イツマデガイ  
コシダカヒメモノアラガイ  
ヒダリマキモノアラガイ  
カワネジガイ  
ミズコハクガイ  
ナガナタネガイ  
ナタネキバサナギガイ  
ブドウマイマイ  
エゾドブシジミ  
オオナガザトウムシ  
ヒトハリザトウムシ  
フタコブザトウムシ  
アリアケモドキ  
アユミコケムシ

《LP》

シモキタシブキツボ  
ナンブマイマイ  
ササミケマイマイ  
トウホクスベザトウムシ  
ヤマトオサガニ

## (5) 凡例

### 1) 構成

分野ごとに概説、各選定種を解説した本文、引用文献で構成されています。

また、平成 18 年（2006 年）に発刊した青森県レッドリストと比較して、新規追加した種及び変更があった種については、2（5）にある変更点一覧に簡潔にその理由を掲載するとともに、新規追加された種については、1（4）及び3（1）にある選定種一覧にも網掛けで表示しました。なお、本文中の敬称は省略しました。

### 2) 本文の項目

対象野生生物名 : 科名・和名・学名を記述した。

カテゴリー : 青森県カテゴリー及び環境省カテゴリーを記載した。

なお、環境省のカテゴリーについては、「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」（平成 18 年公表）及び「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」（平成 19 年公表）に該当になるものを記述した。

形態的特徴 : 選定種の形態の特徴について記述した。

選定の理由 : 対象種として選定した理由について記述した。

分布と生態の概要 : 分布と生態について概要を記述した。

生存に対する脅威と保存対策 : 想定される圧迫要因と保存対策について記述した。

特記事項 : 上記以外で特に記載すべき点について記述した。

執筆者名 : 執筆者名を記載した。

但し、C、D ランクについては、形態的特徴～特記事項の項目をまとめて記述している。

なお、情報量が少ない等の理由により、記述が不可能なものについては項目を省略したものもある。

### 3) 種名と配列

種の配列及び和名・学名については、国際植物命名規約及び国際動物命名規約に則り、かつ、環境省レッドリストを参考とし、また、必要に応じてもっとも新しく適切と思われるものを使用しました。（植物と動物では表現の仕方が異なります。）

なお、学名のうち、変種名が種小名と同じ場合は変種名を省略しました。

### 4) 写真

口絵に使用した写真は、撮影年・撮影場所ないし採取場所並びに撮影者について記述しています。標本写真の一部については採取地が不明なため、標本の収蔵場所を（ ）内に記しました。

